

雲仙普賢岳の火山災害で被災した島原市と深江町の住民の対応の比較

長崎大学工学部 学生会員 ○塩津 雅子 長崎大学工学部 フェロー会員 高橋 和雄
長崎大学工学部 学生会員 伊東 義信 長崎大学大学院 学生会員 西村 寛史

1. まえがき

雲仙普賢岳の火山災害(平成2年11月～平成7年5月)で被災した島原市と深江町は水無川をはさんで隣接している。しかし、これら2つの自治体の災害中の住民への対応、合意形成の方法、災害復興・振興への取り組み、住民意識および社会経済状況などに大きな相違があることが考えられる。本研究では、島原市および深江町で行ったアンケート調査に基づき、現在の生活、本復興計画および災害対策などについて結果の比較分析を行う。

2. 島原市および深江町について

島原市は島原半島の中核都市として、深江町は後継者がいる豊かな農業地域として発展してきた。島原市および深江町では雲仙普賢岳の火山災害により表-1のような物的被害とともに、災害の影響を受け島原市と深江町では人口が平成2年から平成7年の間にそれぞれ9.0%、6.5%減少している。

3. アンケート調査

(1)アンケート調査の概要 「島原市全域の復興・振興に関するアンケート調査」および「深江町の復興・振興に関するアンケート調査」の概要は表-2のとおりである。質問項目は生活の現状や今後の災害対策など多岐にわたっている。災害前からの居住者が島原市で93.0%、深江町で83.7%と回答者の多くを占めている。

(2)住まい地区の状況について 現在の居住地区は、島原市では「住宅地域」が67.4%、深江町では「農業地域」が49.3%で最も多い。また、「古くからの集落」に住んでいるという回答は島原市で72.3%、深江町で82.8%となっている。町内会(自治会)行事へ「積極的に参加している」としている人は島原市、深江町でそれぞれ52.7%、64.2%となっており、深江町では「スポーツ大会」および「お祭り」といった住民がふれあう行事がそれぞれ71.1%、57.1%と島原市の51.2%、21.6%を大きく上回っている。

(3)現在の生活について 島原市および深江町に「住み続けたい」とする人はどちらも約90%となっている。最も多く挙げられた「住み続けたい」理由は、島原市で「愛着がある」(65.5%)であるのに対し、深江町では「家屋や畑がある」(73.7%)となっている(図-1)。一方、「他の都市に移りたい」理由は、島原市で「人口や商工業の流出でまちがさびれる」が47.1%(深江町、10.5%)、深

表-1 火山災害による島原市および深江町における被害

区 分			島原市	深江町
平成2年の人口および平成2年から平成7年の人口減少率			44,828人 9.0%	8,422人 6.5%
物的被害	住家	全壊	587戸	101戸
		半壊・一部損壊 など	608戸	690戸
	非住家		852戸	243戸
避難者数と避難世帯数(ピーク時)			7,208人 2,047世帯	3,804人 943世帯

表-2 アンケート調査の概要

	島原市	深江町
	平成9年9月	平成10年11月
実施年月	平成9年9月	平成10年11月
配布・回収	郵送方式	郵送方式
対象者	島原市全域の20歳以上 選挙人名簿から無作為抽出 による約3%(963人)	深江町全域の20歳以上 選挙人名簿から無作為抽出 による約15%(940人)
回収数・回収率	408部・42.2%	343部・36.5%

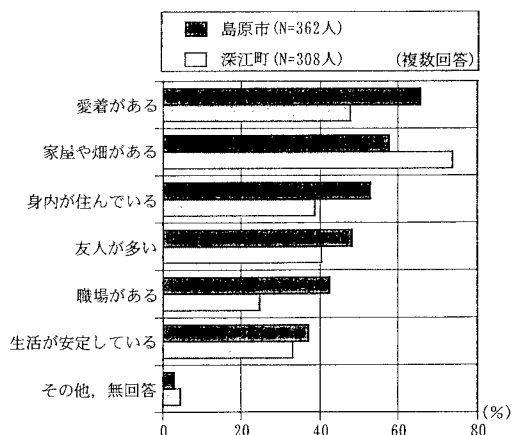


図-1 島原市および深江町に住み続けたい理由

江町で「収入が少なく生活できない」が42.1%（島原市、26.5%）で最も多く、両者の差が大きくなっている。

また、島原半島では地域の活性化のため市町村合併が検討されているが、これについては、島原市で「賛成」とする回答が深江町を上回っている（図-2）。合併する場合の市町村の組み合わせとしては、深江町で「深江町と島原市」が44.2%で最も多い。これに対し、島原市では同様の回答は7.2%にとどまり、「島原市と深江町・有明町」という回答が62.8%（深江町、10.0%）で際立って多い。

（4）本復興計画について 長崎県は平成9年3月に「がまだす計画（島原地域再生行動計画）」を策定し、27重点プロジェクトを決定している。がまだす計画の策定については島原市で88.2%、深江町で77.8%が「知っている」としており、それらの人に27プロジェクトのうち重要と考えられるものを選んでもらった結果が表-3である。深江町では、「島原・深江地区農業区画整備事業」に35.9%の回答があるが、島原市では11.3%にとどまっている。また、深江町では町内に建設中の「道の駅整備事業」に島原市の約2倍の回答がある。「がまだす計画が島原地域の振興・活性化に役立つかどうか」という問に対して、深江町で「期待できる」という回答が島原市より5.5%多くなっている。

（5）防災都市づくりについて 島原市および深江町では、雲仙普賢岳の火山活動が終息した現在でも、土石流、眉山の山体崩壊などの危険は残る。「居住地区で避難訓練が行われたことがあるかどうか」という問に対しては、深江町で「ある」という回答が島原市より約30%多い（図-3）。また、島原市と深江町ではすべての町内会（自治体）で自主防災組織が結成されているが、これについても島原市より深江町で「知っている」という回答が約15%多い（図-4）。これを見ると、防災意識は島原市に比べ深江町の方が高いようである。

4. まとめ

災害中の生活・経済の変化、生活上の問題、火山観光化に対する期待などは講演時に発表する。

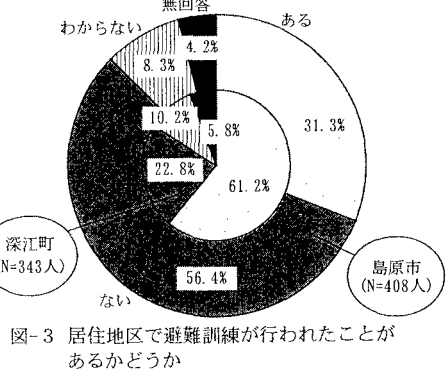
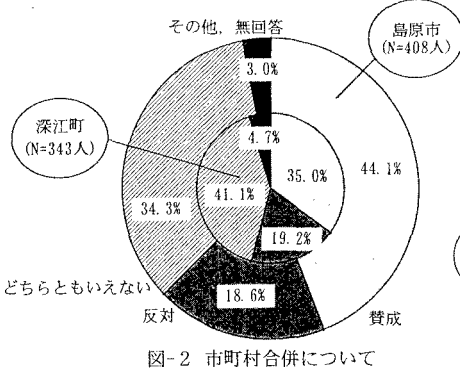


表-3 がまだす計画 27 重点プロジェクトのうち重要と考えられるもの

		※ 1人5個回答	
順位	島原市 (N=292人)	深江町 (N=206人)	
1	復興記念病院(仮称)建設事業 (55.1%) (島原温泉病院の建て替え)	地域高規格道路(島原道路)の建設 (50.5%)	
2	地域高規格道路(島原道路)の建設 (49.7%)	復興記念病院(仮称)建設事業 (46.1%) (島原温泉病院の建て替え)	
3	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (46.2%)	島原・深江地区農業区画整備事業 (35.9%)	
4	島原半島広域観光ルート形成事業 (29.8%)	水無川・中尾川・湯江川流域の防災対策事業 (33.5%)	
5	島原火山科学博物館(仮称)建設事業 (26.0%)	道の駅整備事業 (30.1%)	
6	砂防指定地利活用推進事業 (21.2%)	島原半島広域観光ルート形成事業 (23.8%)	
7	街なみ環境整備事業 (20.5%)	島原火山科学博物館(仮称)建設事業 (19.9%)	
8	島原半島商工業推進支援事業 (19.9%)	街なみ環境整備事業 (19.9%)	
9	道の駅整備事業 (16.1%)	砂防指定地利活用推進事業 (17.5%)	
10	島原半島市町村合併調査検討事業 (15.4%)	高等看護学校の設置事業 (17.0%)	

